

Oracle Secure Backup 12.2

Enterprise Cloud Data Protection



Oracle Secure Backup 12.2 では、異種ファイル・システムおよび Oracle データベースのディスク、テープ、クラウドへのバックアップを一元管理できます。Oracle Secure Backup では、エンタープライズ・クラスのアプリケーション購入がもたらす影響に悩まされることなく、同等のソフトウェアに比べてごく少ないコストで先進のバックアップおよびリストア機能を手に入れ、それにより複雑さを軽減してお客様の投資収益率（ROI）を向上させることができます。

エンタープライズ向けの一元的なデータ保護

Oracle Secure Backup は、複雑な分散 IT 環境内の異種ファイル・システム、Network Attached Storage (NAS)、および Oracle データベースに、一元化されたデータ保護を提供します。高度にスケーラブルな Oracle Secure Backup ドメイン（環境）では、さまざまなサーバーや NAS デバイスが、単一のコンソールと共通の管理インターフェースにより集中管理されます。

Oracle Secure Backup には Oracle データベース統合が組み込まれているため、ファイル・システム保護だけでなく、最適化されたバックアップおよびリストアが提供されます。Oracle Secure Backup は、IT 環境全体に、次のような一元化されたバックアップ管理を提供します。

ビジネス上のおもな利点

- バックアップおよびリカバリ管理の統合
- 単一ベンダー技術リソースによる Oracle 統合
- Oracle データベースのバックアップ・パフォーマンスの最適化
- スケーラブルな単一コンポーネントのライセンス・モデル
- 信頼性の高いデータ保護にかかるコストと複雑さの軽減

おもな機能

- ポリシーベースの一元管理されたバックアップ管理
- Oracle Recovery Manager (RMAN) との組み込み型の統合
- Oracle ZFS Storage Appliance の NDMP ファイル・サービスとの統合による、ディスクへのバックアップの最適化
- 高度なデバイスおよびメディアの管理
- バックアップ暗号化と鍵管理
- ディスクおよびテープ・ストレージ管理の自動化
- 自己記述的バックアップ
- 高度なネットワーク・プロトコルとの統合によるパフォーマンス向上

- Recovery Manager (RMAN) と Oracle データベースの統合による、Oracle Database 10g Release 2 から Oracle Database 12c までのバージョンのサポート
- 同等のメディア管理ユーティリティよりバックアップを 25~40 %高速化し、CPU 利用率を最大 10 %低下させるパフォーマンスの最適化
- InfiniBand (IB) 経由の RDS/RDMA (Reliable Datagram Sockets over Remote Data Memory Access) の利用による、Exadata や Oracle Database Appliance からメディア・サーバーへの高速なデータ転送
- ファイル・システム・データ保護：UNIX / Windows / Linux サーバー
- Network Data Management Protocol (NDMP) を利用した NAS データ保護 (NDMP)
- **NEW**：テープ・ライブラリに加えて、クラウド・ストレージ・ターゲット・デバイスとディスク・ベースのデバイスのサポート
- **NEW**：複製のルールベースの移行のためのステージング・デバイス（ディスクからテープ、またはディスクからクラウド）
- **NEW**：高度なソフトウェア圧縮



単純化された包括的なデータ保護管理

データはもっとも重要なビジネス資産です。Oracle Secure Backup は完結した単一ソリューションで、エンタープライズ・クラスの機能と Oracle データベースの統合を通じて、包括的なデータ保護管理を実現します。同等の製品では、高度な機能に別のライセンスが必要ですが、Oracle Secure Backup は違います。高度な機能が Oracle Secure Backup の低コストなストリーム単位ライセンスに含まれているため、機能を損なうことなくライセンス管理を単純化できます。

統合され、最適化されたオラクルのディスク、テープ、およびクラウド・バックアップ

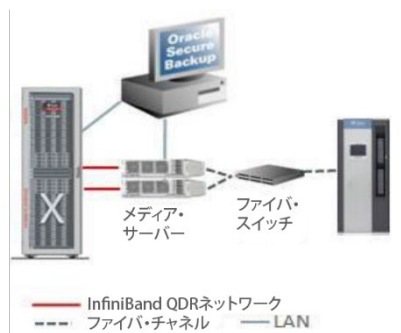
Oracle Secure Backup は、RMAN との組み込み型の統合により、Oracle データベースをもっとも高速にテープにバックアップします。Oracle Secure Backup が管理するテープへのバックアップ時に UNDO や未使用ブロック圧縮などの RMAN / Oracle Secure Backup による最適化により、Oracle データベースのテープへのバックアップは同等のソリューションより軽量で高速です。Oracle Secure Backup のテープへの Exadata バックアップおよびリカバリは、Oracle Maximum Availability Architecture (MAA) エンジニアによって検証されています。

ディスクのバックアップ

- ユーザー定義の Oracle Secure Backup ディスク・プールへのバックアップとリストア
- メディア・サーバーにアクセスできるファイル・システム・ディレクトリに関連付けられたディスク・プール
- きめ細かいユーザー制御によるディスク・プール管理
- ディスク・プールごとに SLA にもっとも適した同時ジョブ（ストリーム）数を定義
- ディスク・バックアップではテープへの移行もコピーも可能
- 最適化されたデータ転送を実現する高度な NDMP 統合

テープのバックアップ

- メディア・サーバー間の動的ドライブ共有
- StorageTek ACSLS (Advanced Cartridge System Library Software) のサポート
- サポートされている VTL (Virtual Tape Libraries) によるサーバーレスでのテープ複製
- テープ・ドライブ暗号化のサポートと鍵管理 (T10000 および LTO)



データ量の急速な増大によりバックアップやリカバリのインフラストラクチャが破綻すると、バックアップ期間などの重要な品質保証契約（SLA）に適合することが困難になります。Oracle Secure Backup 12.2 では、複数のメディア・サーバー間でテープ・ドライブとディスク・プールを動的に共有することによってこれらの課題に対処し、デバイスの利用率やパフォーマンスを改善します。Oracle Secure Backup ディスク・プールとして Oracle ZFS Storage Appliance を使用する場合、バックアップおよびリストアのデータは NFS でなく NDMP 経由で転送されますが、これには次の 2 つの異なる利点があります。

1. NDMP ファイル・サービス統合を経由すると、NFS 経由でバックアップおよびリストア用のデータを送信する場合よりバックアップおよびリストアが高速
2. Oracle ZFS Storage Appliance ではメディア・サーバー（UNIX/Linux/Windows）と共有ディスク・ストレージの双方を必要とする場合に比べてインフラストラクチャのフットプリントが小さい

クラウドのバックアップ

- オフサイトのバックアップ・ストレージが必要な場合に Oracle Cloud Infrastructure Storage Classic を活用
- Object Storage と Archive Storage の両方をサポート

ステージング

- ステージング・デバイスを作成し、ポリシーに基づいて機能する D2D2T (Disk-to-Disk-to-Tape) または D2D2C (Disk-to-Disk-to-Cloud) のソリューションを実装
- データはローカルのステージング・デバイスからテープまたはクラウドのデバイスに移動またはコピー可能

Oracle のセキュアなバックアップ

異種ファイル・システムのデータや Oracle データベースに関するディスクやテープを使用したバックアップやリカバリの集中管理

プラットフォーム・サポート

- Linux、Solaris x86、Solaris SPARC、HP-UX、AIX、および Windows

テープ・デバイス・サポート

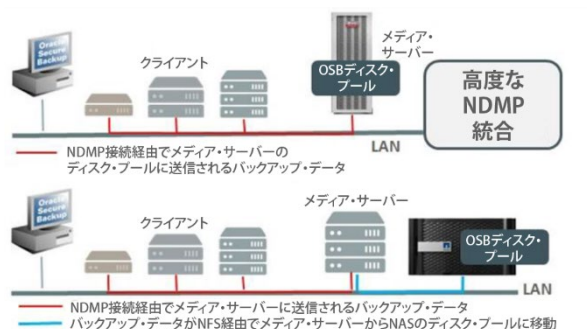
レガシー・デバイスから最新の高性能なデバイスまで 200 を超えるテープ・デバイスをサポート。最新のテープ互換性マトリックスについては、Oracle Secure Backup Web サイトを参照

クラウド・ストレージ・サポート

Oracle Cloud Infrastructure Storage Classic、Standard および Archive コンテナ

関連製品

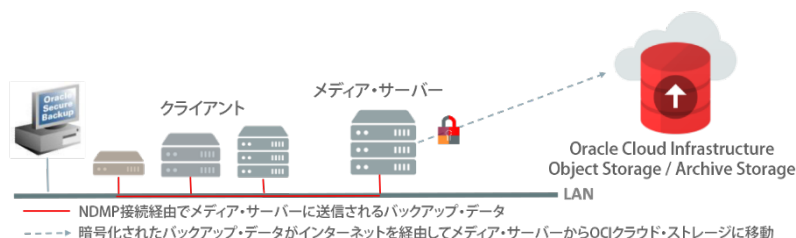
- Oracle Recovery Manager (RMAN)
- StorageTek テープ・ライブラリ
- Oracle ZFS Storage Appliance
- Oracle Cloud Infrastructure Storage Classic



ファミリーに含まれていることは利点です。Oracle Secure Backup は、Oracle データベースやオラクルのストレージ製品およびエンジニアード・システムと統合されており、お客様に最高のユーザー・エクスペリエンスを提供します。

クラウド・バックアップ

新しいクラウド・デバイスにより、OSB では、バックアップを Oracle Cloud Infrastructure Storage Classic に保存できるようになりました。オブジェクト・ストレージとアーカイブ・ストレージの両方がサポートされます。新しいステージング・デバイスとクラウド・デバイスを活用して、テープローテーションベースのボールディング手順を、自動化されたルールベースの D2D2C (Disk-to-Disk-to-Cloud) ソリューションに置き換えることができます。このソリューションは、管理が容易でコスト効率性に優れ、オフサイト・バックアップ・ストレージの要件も満たします。



ステージング

ステージングにより、一時コンテナとしてのディスク・プールの使用が簡素化されます。ディスク・プールのステージング・デバイスに書き込まれたバックアップは、後でテープまたはクラウド・デバイスにコピーまたは移行されます。ディスク・プールにステージングされたバックアップ・イメージは、スケジュールに基づき、またはディスク・プール・デバイスのデータ量に基づき、テープまたはクラウド・デバイスに計画的に移行できます。ステージング・ルールによって、どのバックアップ・イメージが、いつコピーされるかが管理されます。ステージング・ルールを使用して、バックアップ・イメージがステージング・デバイスに保持されることが保証される最低限の時間を管理することもできます。

バックアップ・ドメインのポリシーベースの管理

Oracle Secure Backup には事前構成された一組のデフォルトやポリシーが含まれており、Oracle Secure Backup ログを保持する期間から Oracle Secure Backup ユーザーに要求されるパスワードの最小長まで、Oracle Secure Backup バックアップ・ドメイン内の操作の挙動を規定しています。既存のデフォルト設定のままにしても、固有の要件に適合するように変更してもかまいません。

Oracle Secure Backup には、“デフォルトとポリシー”のインフラストラクチャのほか、バックアップ操作に関するポリシーベースの管理、メディア・ライフサイクル管理、およびテープへのバックアップ暗号化が用意されています。

バックアップ暗号化：ホストベースまたはテープ・ドライブ

テープ・メディアは可搬性があるため、鍵のバックアップ、長期保管、およびディザスタ・リカバリの各要件に対応できます。テープ上のバックアップ・データを、オンサイト時、オフサイト時、さらには紛失した場合にも保護するには、バックアップ暗号化が必要です。Oracle Secure Backup には、バックアップ暗号化鍵を管理サーバーに安全に保存する、ポリシーベースのバックアップ暗号化が用意されています。暗号化鍵は、透過的に（ランダムに）生成することも、パズフレーズを使用して生成することもでき、ユーザー定義の鍵生成スケジュールに基づいて定期的に更新できます。ホストベースの、または LTO および T10000 テープ・ドライブの暗号化オプションを使用して、バックアップを暗号化できます。暗号化鍵の生成と管理は、ホストベース暗号化でもテープ・ドライブ暗号化でも同一です。

優れた信頼性：手頃な価格で安全なデータ保護

オラクルの信頼性：Oracle Secure Backup に用意されている集中テープ管理は、分散された異種サーバー、NAS デバイスおよび Oracle データベースのファイル・システム・データを保護し、オラクル製品に対する投資収益率（ROI）をさらに向上させます。

お問い合わせ

Oracle Secure Backup 12.2 の詳細については、oracle.com を参照するか、+1.800.ORACLE1 でオラクルの担当者にお問い合わせください。



CONNECT WITH US



blogs.oracle.com/oracle

facebook.com/oracle

twitter.com/oracle

oracle.com

Hardware and Software, Engineered to Work Together

Copyright © 2015, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved. 本文書は情報提供のみを目的として提供されており、ここに記載される内容は予告なく変更されることがあります。本文書は、その内容に誤りがないことを保証するものではなく、また、口頭による明示的保証や法律による黙示的保証を含め、商品性ないし特定目的適合性に関する黙示的保証および条件などのいかなる保証および条件も提供するものではありません。オラクルは本文書に関するいかなる法的責任も明確に否認し、本文書によって直接的または間接的に確立される契約義務はないものとします。本文書はオラクルの書面による許可を前もって得ることなく、いかなる目的のためにも、電子または印刷を含むいかなる形式や手段によっても再作成または送信することはできません。

Oracle および Java は Oracle およびその子会社、関連会社の登録商標です。その他の名称はそれぞれの会社の商標です。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC 商標はライセンスに基づいて使用される SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴおよび AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、The Open Group の登録商標です。0115



Oracle is committed to developing practices and products that help protect the environment